

一般質問



水上 務 議員

質問 谷川地区の発展のため住居専用地域へ用途変更できないか
市長 現状では用途変更は無いが今後も地域発展のため努力する

問 6月定例会においても質問をしましたが、再度、質問します。

谷川小学校の児童が減少傾向にあります。

谷好2丁目の工業地域を住居専用地域へ用途変更するべきであると考えていますが、いかがですか。

市長の所見をお伺いします。

答(市長) 全国的な問題となっている少子高齢化及び人口減少の進行は、本市においても例外ではなく、その影響は多く市内小・中学校で児童生徒数の減少という形でも表面化しています。

質問にあります、谷川小学校の児童数は、10年前の平成23年度が169人だったのに対し、本年4月には99人となり、70人減少しています。

児童数の減少傾向を踏まえ、谷好2丁目の工業地域を住居専用地域へ用途変更すべきという提案は、本年、第2回定例会でも同様の質問をいただいています。市としては、現状の用途地域のままでも

住宅や共同住宅などの建築、宅地造成は可能であるという認識に変わりはありません。

しかしながら、地域の将来を心配される気持ちは十分理解できますので、市としても第2回定例会後、直ちに対象地域の土地所有企業と面談し、谷川小学校の児童数の減少や用途地域の変更に対する考え方、社員向けの宅地開発などについて、意見交換を行ったところです。

また、谷好・富川地区の第1種住居地域の中には、1万㎡以上、またはそれに近い面積の未利用地が6箇所ほど存在していますので、それらの土地利用が図られるよう民間事業者に対してPRを続けていきたいと考えていますし、空き家となつて既住住宅について、空き家バンクの活用を働きかけるとともに、本市の充実した子育て支援制度などをPRすることで、子育て世代の居住につなげてまいりたい。

問 第2次北斗市総合計画に「ほっとするくらしがある」ともにすすめるまちづくり」とあり、いいことがいっぱい書いてありますが、開発をしなければ、家が建たなければ、計画が実現できないわけですか。

用途変更しないということは、計画が絵に描いた餅になってしまう気がするのですが、市長はどのように考えているか

お尋ねします。

答(市長) 谷好2丁目の工業地域は、住宅も建てられますし、造成もできます。多様な使い方ができる土地ですので、用途変更はありません。

また、谷好・富川地区には、それ以外にも宅地開発が可能な土地がありますので、そういう宅地開発できる土地があるということもPRする、これは当該地域以外にも子どもたちの減少が著しい地域もありますので、そのようなところも加えて、民間事業者に対してPRしてまいりたい。

問 確かに市長言うように、谷好・富川地区には空き地が6箇所あるのですけれども、中に入っているから、家を建てる人に見ればきつと不便なのですね。

この谷好2丁目の工業地域は、現状のままでも住宅は建築できるのでしようが、ここは谷好の入口で非常に便利なところであり、企業で買ってしまつたら、宅地開発しないと思うのです。

企業に買われる前に、住宅専用地域に用途変更して、住宅だけ建てられるようにしてはどうかと思います。

谷川小学校の児童の減少を一人でも食い止めたい、谷好地区の発展はどうしたらよいかとの思いから、言っているのですけれども、考えを変えていただけませんか。

答(都市住宅課長) 用途変更するには、住民や土地所有者を対象に説明会が必要となり、その後、市の都市計画審議会の審議を経て、北海道と協議をして、都市計画決定という流れになります。

また、手続きの中で、用途変更は土地所有者の意見を踏まえたものでなければならず、市の考えだけで用途を変更することはできないものとなっています。

答(市長) 地域に対する気持ち、実情はよく分かります。

児童の減少問題については、谷川小学校だけでなく、他の学校でもそのような状況になっていますので、今後も市としても、地域発展のために努力してまいりたい。



児童が減少傾向にある谷川小学校